

例会報告：2016年3月1日（晴れ） 第1925回 40周年卓話例会

❖ 結婚記念日

内山 修一さん（3月1日）
石坂 弘之さん（3月3日）
大野 英明さん（3月4日）

❖ 奥様誕生日

小林 真砂美さん（3月7日）

❖ ニコニコ箱

櫻井 康二 委員長

	ニコニコ箱	累計	目標
3月1日分	20,000	635,271	1,300,000

*卓話者

井上 寛様…久しぶりにお邪魔します。宜しくお願いします。

*ビジター

中村 建作様（小田原北RC）…本日はお世話になります。宜しくお願いします。

*結婚記念日

内山 修一さん…結婚記念日お祝いいただき有難うございます。

*奥様誕生日

小林 和彦さん…妻の誕生日のお祝い、ありがとうございます。

*その他

執行部一同…寒さもやわらいで春らしい季節になってきました。四十周年記念式典を一ヶ月後にひかえておりますので、お身体に充分お気を付けて下さい。

河野 秀雄さん…①井上 寛君 期待しております。ありがとうございます。②孫達が大学、高校へと挑戦しています。成長しているんですね。頑張れ！！

石崎 孝さん…井上 寛さん、本日は卓話ご苦労様です。お元気そうでなによりです。よろしくお祈りいたします。

杉崎 勝成さん…本日も忙しい中、お話しいただきありがとうございます。よろしければこのまま居ていただきたいと思っております。

金山 一美さん…長い間お世話になりました。これからは外から貴クラブを応援していきたいと思っております。

■ ■ 今後のメークアップ情報 ■ ■

-2016年3月-

- ▶9日(水) 小田原北
- ▶10日(木) 小田原中
- ▶11日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「会員による卓話」
- ▶11日(金) 足柄 おんりーゆー 12:30
「会員による卓話：担当クラブ研修」
- ▶14日(月) 小田原
- ▶15日(火) 箱根
- ▶16日(水) 小田原北
- ▶17日(木) 小田原中
- ▶18日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「会員による卓話」
- ▶18日(金) 足柄 おんりーゆー 12:30
「会員による卓話：担当 出席」
- ▶21日(月) 小田原 休会
- ▶22日(火) 箱根
- ▶23日(水) 小田原北
- ▶24日(木) 小田原中
- ▶25日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「会員による卓話」
- ▶25日(金) 足柄 おんりーゆー 12:30
「会員による卓話：会長エレクト」
- ▶28日(月) 小田原

【小田原城北ロータリー・クラブ】
 事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
 電話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
 URL：http://www.odawarajhrc.jp
 Mail：info@odawarajhrc.jp
 例会場：小田原卸センター内会議室
 創立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
 例会：毎週火曜日 12:30～13:30
 クラブ会報委員会
 監修：柳井 渉
 編集長：小林 和彦
 コピーライター：小林 和彦
 デザイン：小林 和彦
 フィールド：大川 久弥

会員数：41名



RAC
会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！



国際ロータリー第2780地区

小田原城北ロータリー・クラブ

R.I. DISTRICT No.2780
ODAWARA JOHOKU R.C.
2015-2016
WEEKLY BULLETIN



世界へのプレゼントになろう

【R.I. 会長】
K. R. ラビンドラン
【R.I. 2780地区ガバナー】
田中 賢三
【第9グループガバナー補佐】
石崎 孝



【会長】木村 頼弘
【副会長】久保田 知子
【幹事】柳井 渉
【副幹事】須藤 公司
【会場監督】西 寛

世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world

本日の例会：通常例会（第1926回）

会場：小田原卸センター内会議室
 日時：2016年3月8日 12：30～13：30
 司会：須藤 公司 副幹事

12：30	開会点鐘：木村 頼弘 会長 ロータリーソング斉唱 「我等の生業」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告／出席報告／委員会報告 同好会報告／ニコニコ箱 閉会点鐘：木村 頼弘 会長
13：00	クラブフォーラム（社会奉仕）

楽しさと感動を呼ぶ一年にしよう

- 【今後の例会・卓話スケジュール】
- 3月15日（火）通常例会
40周年準備例会
 - 3月22日（火）通常例会
クラブ協議会（PETS報告）
 - 3月29日（火）休会
 - 4月2日（土）40周年記念式典
 - 4月12日（火）通常例会 12:30
担当：鈴木会員
卓話：みずほ証券（株）経営調査部投資教育推進室
室長 浜崎祐一郎様
 - 4月19日（火）通常例会 12:30
クラブ協議会（地区協報告）

■地区活動目標の概要

1.奉仕活動	ポリオ撲滅最優先 R財団地区補助金事業推進
2.公共イメージ	IM クラブ周年記念事業 ロータリーデーなどイメージ向上の機会を創る
3.寄付	財団：一人当たり 200ドル以上 米山奨学：一人当たり 20,000円以上 ポリオ撲滅：一人当たり 40ドル以上 ベネファクター：1クラブ 1名以上 ロータリーカードの普及
4.会員増強	10パーセント 衛生クラブを立ち上げる。
5.中核的価値観	ロータリーを学び、また学ぶ機会として、例会・IM・地区委員会・地区セミナー・地区大会・国際大会の出席率を高める。
6.オンラインツール	My Rotary ロータリークラブセントラルにクラブ情報入力
7.特別月間	戦略計画とR財団6つの重点分野を学び実践する機会として理解する。

例会報告：2016年3月1日（晴れ） 第1925回 40周年卓話例会

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2016年3月1日 12：30～13：30

❖ 会長挨拶 「水と衛生」



木村 頼弘 会長

今月は「水と衛生」月刊ですので、今日は「水と衛生」についてお話をします。私達の日常生活で水の事で困るとい事は、よほどの事がない限り起こりません。毎日当たり前のように水が使えるわけです。日本では1日の一人当たりどれくらいの水を使っているかご存知でしょうか。約350リットルも一人が毎日水を消費していると言われてい

ます。これを世界レベルでみると1日の一人あたりの水の消費量が1番多い国は、カナダの800リットルで2番目がニュージーランドの740リットル、3番目アメリカの580リットル日本は6番目にあたります。

しかし、中東の砂漠地域では一人1日10リットル、アフリカの発展途上国では5リットル以下という信じ難い統計が出ています。人間らしい生活を続けるために1日に必要な水の量は最低でも50リットルは必要と言われてい

ます。私達がいかに水を贅沢に使っているか、この数字を見れば分かると思います。皆さんもテレビ等で発展途上国の人達が、何時間も掛けて、水を汲みに行ったり、それも川の濁った水や、池に溜まった泥水など、汚染された水を飲んで生活している光景をご覧になった事があると思います。世界の人口は72億、その内10億以上の人

が汚染された水を飲んで暮らしています。そして25億人が、衛生的なトイレを使用できない環境に置かれています。要は25億人が、たれ流しに近い状態だとい事です。よって水の汚染が進み深刻な問題になっているのが実情です。発展途上国では水が飲めなくて亡くなる人は殆どいないそうです。汚染された水を飲む事により亡くなる人が、圧倒的に多いそうです。

全てに於いて綺麗な水があれば、病気も、教育も、貧困や紛争も、人々の生活を大きく変えることができるのです。アフリカ等の途上国で1つの井戸を掘ると100人の命が助かると言われています。そして、1つの井戸を掘るのに、幾らかかるか、皆さんご存知でしょうか。1つの井戸を掘るのにたったの25,000円で出来るそうです。

そして1つのトイレを作るのに20,000円あれば出来るそうです。私達が少し寄付をすれば、5個や10個の井戸やトイレがすぐに出来るわけです。でも悲しいことに、私達は井戸やトイレを作るお金は出せませんが、その先どうしたら良いのか解りません。非常にモドカシイ事だと感じます。

「水と衛生」の問題については、私達には遠い国で起きている問題としか、受け止められませんが、何かチャンスがあれば、ロータリアンとして協力出来ればいいなと思っております。

❖ 幹事報告

柳井 渉 幹事



- 1)カレンダーを3月8日を社会奉仕フォーラム、3月15日を40周年、3月22日をPETS報告に変更します。
- 2)12月末で退会された田代さん、太田さん、大川誠さんに慶弔規定により10年以上在籍された記念品を贈呈しました。
- 3)今月のロータリーレートは116円です。

❖ 出席報告

安藤 克己 委員

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
3月1日	41(40)	34	0	85.00%
2月23日	42(41)	31	0	75.61%
2月16日	42(39)	33	2	89.74%

【欠席者】6名

露木 清勝、齋藤 永、石坂 弘之、仲 徳子、大谷 宏、大野 英明

【今回MU】なし

【前回MU】増加なし

【前々回MU】増加なし

❖ 委員会報告

40周年実行委員会 大川副委員長

4月2日(土)に40周年記念式典を開催いたします。受付が3時半からとなりますので、皆様必ずご出席いただきますようお願いいたします。当日はご家族の方は無料となりますので是非とも奥様をご同伴うえご参加いただきますようよろしくようお願いいたします。

鈴木 友徳会員

3月3日にNHKBSプレミアムで「英雄たちの選択 富士山宝永大噴火」が放映されます。この宝永の噴火の資料が唯一私の家に残っていてそれが原本となつての放送となります。宝永の噴火では砂が山北で1m、須走で2m50cmくらい降っています。それが泥流となって酒匂川を流れ下ります。江戸時代の絵図を見ると酒匂川の河口の沖に島が書いてあるものがあります。そのくらい砂が出て農民は困窮したわけです。その内容を放送するようですので是非皆さん見て下さい。

❖ Table flower

- 桃
- 菜の花
- チューリップ
- スイトピー

【花言葉】

桃：「天下無敵」

菜の花：「快活」

チューリップ：「思いやり」

スイトピー：「門出」「永遠の喜び」



❖ 卓話

「40周年にむけて」

井上 寛 様



杉崎実行委員長より創立40周年に向けての卓話を依頼され、退会した人間が出る幕ではないとお断りしたのですがどうしてもということでのこのことやってまいりました。今日は、3月1日ですから式典まで残すところ1カ月余りとなりました。

私が小田原城北RCに入会させていただいたのは、たしか15周年の時だったと記憶しています。以来、20周年、25周年、30周年、35周年と在籍中4回の周年を経験させていただきました。

15周年の時にいただいた梅の木は、今でも庭で元気に花を咲かせてくれています。20周年では、今は亡き土岐会長の下、ローターアクト設立や大邱松林RCとの友好クラブ関係締結がなされた

と記憶しています。25周年は河野会長年度で私が副会長を務めておりましたが、小田原市内だけでなく大井町などあちこちに植樹を行ったと思います。

35周年では、中村会長の下、周到に準備を進めてまいりましたが、2011年3月11日に発生した東日本大震災のため式典を取りやめ、ムクゲの植樹のみを行い35周年として計上していた予算のほとんどを2780地区を通して被災地支援のために寄付しました。

30周年は、ちょうど10年前になりますが、私が会長をさせていただいた年度に執り行いました。30周年を迎えるにあたり、私は小田原城北RCの素晴らしさを会員一人一人がもう一度認識し、ロータリアンとしての誇りと喜びを共有する機会にしようと考えました。

周年の意義とは、その組織の目的、存在意義を再確認することにあると思います。竹も天に向かって真っすぐに成長していきますが、節が無ければ簡単に折れてしまいます。周年は竹の節と同じで、会員がもう一度ロータリー精神を確認し心を一つにすることによって次の5年に向かってあらたなスタートが切れると思ったからです。小田原城北RCの会員であった私が常日頃感じていたことがあります。今年度はどうなのか知りませんが、このクラブでは伝統的にお世話した米山奨学生や青少年交換学生への対応が素晴らしいことです。スリランカからのペレラ・プリヤンカ君、韓国からの李雲山君の奥様＝キムチョンユンさん、台湾のリー・ワンチさん、中国からの趙 晶さん、みなさんそのプログラムが終了してからもお世話した会員と親交を温めています。これは、いかにお世話した方々が親身になってお世話したかという証しではないかと思

特に米山奨学生のプリヤンカ君の時には、一年間の米山奨学生としての期間終了後も有志を募り、彼が大学を卒業するまで月々10数万円の援助をさせてもらいました。当時は60名前後の会員が在籍しておりましたが、ほとんどの会員が賛同、協力していたと記憶して

います。まさにロータリーの目的のひとつにある「ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること」の表れだと思

います。このようにして太くなっていった米山奨学生のプリヤンカ君との絆がさらに太くなる事態となります。2004年12月にスマトラ島沖地震が発生し、その大津波によりプリヤンカ君の住むスリランカも甚大な被害を蒙ったことを知るや、すぐに小田原城北RC一丸となって義捐金を募り、近隣のRCや知り合いの協力も得て、その募金額は600万円以上に達しました。そのお金は、被災者のための住宅建設などにあてられました。この業績に対し、スリランカの大統領夫人から感謝状が授与されて

います。そして迎えた翌年の30周年には記念事業として、この被害から立ち直るには継続的な支援が必要との考えから、現地のプリヤンカ君と協力し、津波で両親を失った子供たちを支援するアラリヤ基金を設立しました。2011年3月の東日本大震災の時には、プリヤンカ君が責任者を務めている会社の従業員（約200名）の皆さんが1日分の給料を義捐金として送ってくれました。一流企業でも月収3,000円ほどのスリランカの人々にとってその1日分がどれほど大きな価値を持つのかは想像に難しくありません。それを義捐金として使ってほしいとの申し出に皆大きな感動を覚えました。

このように小田原城北RCは、一度いただいたご縁を大切に

